

まちのわだい

「人の和と芸術」くみんまで創ろう文化の華々をテーマに第18回益城町文化祭が、10月25、26日に町公民館および町民体育館で展示部門が、また11月1日に町文化会館でステージ部門が開催されました。今年も町文化協会（末武有^{まゑたけ}二会長）の主催で行われ、展示部門では、華道、文学、美術・工芸、書道、茶道などの幅広い分野から14団体191人の味わい深く、丹精込めて作られた秀作、力作が所狭しと並べられ、訪れた人の目を楽しませていました。



熟練された舞台が観客を魅了しました

美と技と人の和の共演 第18回益城町文化祭

また、ステージ部門では、田上麻耶さん（津森小3年・堂園）の「きみに会えてよかった」と草野円華さん（広安小6年・安永1町内）による熊本のむかし話「ぼんさらや」の童話発表がオープニングを飾り、邦楽、洋楽、日舞、民舞、吟詠部門などから54団体538人が参加し、日ごろから熟練された、目を見張るばかりの芸術性の高い舞台が観客を魅了し、たくさん温かい拍手が出演者に送られていました。



秀作、力作が所狭しと展示されました

おいしいおすしに舌鼓

町立養護老人ホーム葉山荘

11月5日、町立養護老人ホーム葉山荘（高森修自施設長^{たかもりしゅうじ}）で、今年も11月のすしの日に合わせた恒例の「すし慰問」がありました。

これは、入所者のお年寄りに昼食に合わせ、新鮮なネタで握ったおいしいおすしをたくさん食べてもらおうと、町料理飲食業組合（山本正一郎組合長^{やまもとしょういちろう}）と町商工会女性部（富澤典子部長^{とみざわのりこ}）が企画し、毎年行われているもので、今年で21回目を迎えました。

この慰問のために参加者は、日ごろから練習している踊りやカラオケも披露。プロ顔負けの熟練されたステージに入所者は、おいしいおすしを食べながら、笑顔と拍手を送り、楽しいひとときを過ごしました。



おすしを食べながらご満悦の入所者の皆さん

笑顔でさわやかスポーツ大会

第27回福祉スポーツ大会

10月24日、町総合体育館で、第27回益城町福祉スポーツ大会が開催され、町内の福祉施設や老人クラブ連合会、身体障害者福祉協会などから約700人が参加しました。

この大会は、社会福祉関係団体や福祉施設入所者の親睦を深め、体力の向上を図り、社会に対し理解を深める目的で、毎年開催されているものです。

参加者は、午前中に行われたスポーツ競技では、大玉転がしやパン喰い尻圧測定、対抗玉入れなどの競技に全員が協力し、最後まで笑顔で汗を流していました。

また、午後からは、各施設や団体によるアトラクションやゼンジー・一億さんによる「爆笑！トーク&マジック」で楽しく思い出に残る一日となりました。



笑いが絶えなかった「パン喰い尻圧測定」